

## パンデミック時期のモンゴル語新語・用語の特徴と応用

G. ゲレルマー

モンゴル科学アカデミー言語文学研究所

近年、モンゴルでも世界的なパンデミックであるコロナウイルス感染症、感染予防や免疫に関する新語・用語が広まった。これらの新語は次の2つの方法でモンゴル語に導入された。

1. 書きことばを生かした。2020年4月29日に、4条19項からなる「コロナウイルス（COVID-19）の感染予防と対策、社会・経済への悪影響の軽減について」という法律が採択され、また、COVID（コヴィット）に関する国際機関の声明、契約などの公的文書を通じて多くの新語がモンゴル語に入った。例えば、тохиолдол（感染者のケース）、сэжигтэй тохиолдол（疑い例）、баглагдсан тохиолдол（確診例）、халдвар（感染）、хөл хорио（外出制限）、тусгаарлах（隔離する）、ажиглах（観察する）等である。

2. ニュースを通じて新語を多数翻訳した。

a. モンゴル語による新語：халдварлагдсан（被感染）、халдваргүйжүүлэлт（消毒）、хүн хоорондын зай（ソーシャルディスタンス）、ойрын хавьтал（濃厚接触者）、нэгдүгээр хавьтал（濃厚接触者）、мутац（変異株）、сүргийн дархлаа（集団免疫）、ногоон бүс（グリーン圏域）、улбар шар түвшин（オレンジ感染警戒レベル）、тандалт судалгаа（医学的研究）、эерэг（陽性）、сөрөг（陰性）、амны хаалт（マスク）などである。

b. 英語の固有名詞をそのまま導入。ウイルスの固有名詞 COVID-19、альфа вирус（アルファ株）、делта вирус（デルタ株）、омега вирус（オメガ株）、ПИ СИ АР（PCR）、омикрон（オミクロン）、файзер вакцин（ファイザー社ワクチン）、астраниейка вакцин（アストラジネカ社ワクチン）、модерна вакцин（モデルナ社ワクチン）などがある。

c. 外国語との複合新語：ковидын шинжилгээ（COVIDの検査）、ковидын эмчилгээ（COVIDの治療）、ковидын эм（COVIDの治療薬）、дархлаажуулалт（予防接種）、вакцинжуулалт（ワクチン接種）、нэгдүгээр тун（一回目接種）、хоёрдугаар тун（二回目接種）、гуравдугаар тун（三回目接種）、дөрөвдүгээр тун（四回目接種）等である。

d. パンデミックのみに関連する医療分野に使われる新語。улаан бүс（赤圏域）、идэвхтэй халдвар（感染力の強い感染）、тусгаарласан өрөө（隔離室）、халдварын үе（感染症流行期）、явуулын дархлаажуулах цэг（移動式接種施設）等がある。

これらの新語・用語はモンゴル語として適切なものと不適切なものがあり、それを修正するのは我々の責務である。

Цар тахал（ツアラ・タハル）は新しく造られた語で、それ以前の医学ではэпидеми（エピソード）がтахал（タハル）と呼ばれ、「いくつかの地域に広がる感染症」を指し、

пандеми (パンデミック) は「全国および世界中に広がる感染症」を意味していたため、モンゴル語でцар тахалと呼ぶのが適切である。сүргийн дархлааは英語の herd immunity を直訳したものである。モンゴル語の сүргийн дархлааは「人間」ではなく、「家畜の群れ免疫」を意味するので、хүн амын дархлаа (人口免疫)、またはнийтийн дархлаа (集団免疫) と呼ぶのが適切である。